【別添２】

令和３年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校　通信制課程　学校番号 5813

Ⅰ　自己評価

1　学　校　教　育　目　標	1　「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2　社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。

2　評価する領域・分野	進路指導
3　現状､生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	進路情報提供については70％の肯定的評価であった。進路指導については、肯定的評価が50％わからないが40％であった。主な原因として卒業をすることを目標としている生徒や卒業後すぐに就職・進学を考えていない生徒の比率が高いことが考えられる。
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇望ましい勤労観・職業観を形成させて、社会的自立を促進する。 ◇主体的な進路設計ができるように指導し、卒業後の進路実現を目指す。
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）外部講師による進路講話を実施して、生徒及び保護者の進路意識を高める。 （２）面接指導（スクーリング）及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供する。 （３）随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など、卒業後の進路を見据えた指導を個に応じて実施する。	（１）生徒及び保護者を対象とするアンケート 就業調査 （２）進路希望調査 （３）進路先決定状況

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10　評　価
・就業調査及び進路希望調査を実施して実態把握に努めた。	①生徒の実態把握と情報提供は、十分にできたか。	A (B) C D
・進路説明会、個別の学力補充、小論文指導、面接指導を実施した。	②個々の進路希望に応じた適切な支援ができたか。	A B (C) D
・外部講師による生徒対象の進路ガイダンスを実施した。	③進路関係についての認識が深まったか。	A (B) C D

11 成果・課題	総　合　評　価
○卒業予定者を対象に、全職員で連携して情報提供、具体的な学習指導、面接練習、志望理由書、履歴書等の添削指導と個別面談を繰り返し実施した。就職希望者についてハローワークとも連携して指導・支援した。 ○指導が必要な時期にバラツキがあるため、全職員による指導体制を構築、運用した。 ○外部講師による講話を実施し、生徒、職員ともに有益な情報を得ることができたと好評であった。 ▲自己肯定感が低く、卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒が多い。具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や方法の工夫が課題である。	A (B) C D

12　来年度に向けての改善方策案

・自己肯定感の低い生徒や、多様な生育状況・家庭環境を持った生徒の進路実現に向けて、最善の支援が行えるように、全職員の共通理解によって個々の生徒の状況や日頃の様子に注意を払う。また、関係機関とも連携して、卒業年度の流れを紙面やデータで作成し、懇談で活用したり、ホームページに掲載するなどして情報提供するとともに指導に努める。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和４年２月２４日

【意見・要望・評価等】

・卒業後の「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒が多いことが分かった。
・通信制での進路指導は難しい面が多いとは思うが、指導の継続をお願いしたい。
・今後も生徒個々の特徴を理解し、親身に指導していただきたい。